

手話サークル○○○の会 ミニ講演 Part2

みんなでつくる手話サークル



だんな

私と手話サークル①

- ・大学2年のときに初めて手話サークルに行く
○○市手話サークル、○○大学手話サークル
- ・大学3、4年時に手話サークル役員に
大学3年 広報班
大学4年 企画班
- ・手話サークル巡りを始める

私と手話サークル②

今までにお邪魔した手話サークル

●群馬県
前橋市: あさひ(昼)、田幸(昼)、みつば(夜)、虹(夜)、鳥居(夜) 高崎市: つし(昼)、ひまわり(夜)、ふれあい(夜) 大田町: たんぽぽの会(夜) 伊勢崎市: さくらそう(昼間)、どんぐり(夜) 桐生市: 桐の葉(夜) 太田市: くみの木(夜) 館林市: あすなる(夜) 渋川市: あじさいの会(昼)、おひつる(夜) 藤岡市: のぎく(夜)
安中市: 安中手話サークル(夜) 中之条町: けやき(夜) 大泉町: はるにれ(夜)

●茨城県
つくば市: 手代木(夜) 土浦市: 土浦手話サークル(昼)、(夜) 守谷市: トウインクル(夜) 笠間市: さしる(昼) 水戸市: しあわせ(昼)、ひばり(夜) ひたちなか市: 竹の子(夜) 牛久市: わ・輪・WA(昼) 下妻市: 葉の花(夜) 取手市: ことのは(夜)

●千葉県
千葉市: 竹の子(昼)、はなみがわ(夜) 船橋市: 空(夜) 松戸市: ゆうかり(昼)、(夜) 市川市: 輪の会(昼)、(夜)、同好会(昼) 流山市: 木の会(夜) 鎌ヶ谷市: みどりの会(夜)

●その他の県・大学手話サークル
川崎市: 手の輪(夜)、さくらんぼ(昼)、クローバー(夜) 豊橋市: ビエロ(夜) 三郷市: シードラゴン(夜)

群馬大学・東京成徳大学・筑波大学・文教大学・早稲田大学・千葉商科大学

手話サークルに関する調査①

手話サークルによるコミュニケーション支援者育成の現状と課題

一大阪府内手話サークルの実態調査を通してー

佐野 美保 大阪市立大学大学院
日本福祉教育・ボランティア学習会研究紀要 2009

大阪府内57ヶ所の手話サークルを調査

手話サークルに関する調査②

- 手話サークルの継続年数
3年未満が35% →定着率が低い
- 手話サークルに求めること
手話の学習内容の充実 62%
交流、仲間づくりができる例会や行事 78%
- サークル活動の目標(個人)
ろう者と手話で話したい 82%
- 手話の学習を通じて手話を習得し、ろう者とのコミュニケーションが可能になり、毎週の例会で楽しく交流し仲間をつくりたい

手話サークルに関する調査③

- サークルの問題点
会員の減少 31%
サークル代表者のコメント
・学習内容の問題(マンネリ化及び手話習熟度の差)
・会員の学習志向
・役員や担当、通訳できる人が少ない
- ろう者の意見
・手話なしで声のみで話をする人が多い
・会員のマナーが悪い
・手話サークルの運営を会員と話し合いたい

手話サークルに関する調査④

おわりに

・今後担うべき役割を考えると、今、何が求められているのかという原点に立ち戻り、その活動目的と存在意義を常に問いだしていく必要がある。

・手話サークルは、手話を共通言語とするコミュニティとなり、地域の中でろう者と聴者をつなぎ、両者が共に支援者であり当事者という意識から、手話を通じて共に活動の目的や課題を学ぶ場でなければならない。

手話サークルに関する指針①

1991年(平成3年)

手話サークルに関する指針<全日本ろうあ連盟>

手話サークルの目的

手話学習を通して、ろうあ者問題の理解を深めると共に、社会啓発を行うことにより、ろうあ者の基本的人権の擁護と社会参加を促進することを目的とすべきで、具体的には下記の取り組みを行うことにあります。

手話サークルに関する指針②

- A) 手話を正しく学習し、手話普及と社会的な認知を促進する。
- B) ろうあ者の生活・文化・歴史等を正しく学び、その知識を社会に還元する。
- C) ろうあ者を含めた障害者の生活・権利の制約を正しく把握し、それをなくすための活動を行う。

調査・指針を通して

- ・手話の学習だけが目的ではない
- ・それぞれの地域のニーズに応じた目的がある
- ・手話サークルの目的をはっきりさせる
- ・目的を機関紙などに載せ、会員全員の目に触れるようにする
- ・サークルの運営をろう者とともに話し合っていく

コラム① 手話サークルの誕生

1963年(昭和38年)
京都市手話学習会「みみずく」の発足

1970年(昭和45年)
手話奉仕員養成事業
手話講習会で手話を学ぶ → 手話サークル

1978年(昭和53年)
手話サークルに対する基本方針<全日本ろうあ連盟>

1991年(平成3年)
手話サークルに関する指針<全日本ろうあ連盟>

良いサークルと悪いサークル①

- ★良いサークル
事前にやる事が決まっていて**時間**どおりに始める
→きちんと**準備**してきている
- ★悪いサークル
集まってから「今日は何をやろうか」と考える
→とりあえず**テキスト**のここ
とりあえず**フリートーク**

良いサークルと悪いサークル②

★良いサークル

役員も会員も一緒になって活動している

★悪いサークル

役員だけが忙しそうにしている

→役員だけが後ろの方において、サークルに参加していない。

良いサークルと悪いサークル③

★良いサークル

聴者もろう者も混ぜて話している

★悪いサークル

聴者(ろう者)だけでかたまって話している

→聴者が手話を使わず、声を出して話すことも原因

19時～19時半の時間の使い方

・サークル自体は19時からのサークルが多いが、活動は19時半過ぎに始まるサークルが多い

→最初の30分の使い方が重要

- ・レク
- ・ろう者の話(読み取り練習)
- ・手話検定の単語確認
- ・前回の復習
- ・ビデオ、DVD教材で学習

授業の90%は準備で決まる

授業のつくり方

- ①目的を決める → 生徒に何を理解させたいのか
- ②生徒の実態に合った授業の流れを考える
- ③ワークシート(プリント)をつくる
- ④実物や画像・動画などの視覚教材を準備する
- ⑤板書計画、発問計画を立てる
- ⑥教える内容について詳しく調べる

野田市手話サークル



テキストを用いる利点

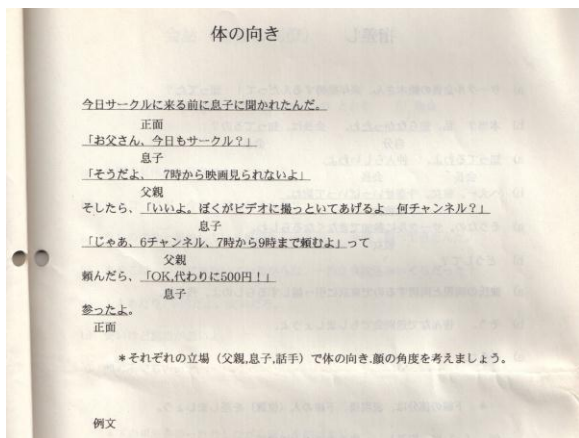
- ・毎回の学習内容が確保されている
- ・身につける内容が明確になっている
- ・毎回テーマが決められているので、質問しやすい
- ・予習、復習ができる
- ・学習した内容が文字として残るので、次年度学習内容の見直しがしやすい
- ・ろう者が来て学習を担当する時、進めやすい

学習内容のテーマ例①

あいさつ(自己紹介) 会話文 表情 感情 物の形
 ロールシフト 時間 疑問詞
 ろう者について
 [生活 文化 歴史 福祉制度 教育 コミュニケーション]
 様々な場面での手話
 [医療 福祉 教育 職場 地域 家庭 趣味 旅行 昔話]
 手話通訳の練習
 聞き取り重点 読み取り重点

学習内容のテーマ例②

「手話の基本文法8項目」
 ・具体的表現 ・置き換え表現 ・身振りや表情
 ・格の決定 ・空間活用 ・同時表現
 ・代理的活用 ・繰り返し表現
 「手話通訳技術の7ポイント」
 ・豊かな語彙とその選択 ・表情
 ・主語の明確化 ・代名詞化
 ・時間・空間表現 ・写像的表現 ・同時的表現



フリートーク①

★フリートークのメリット

- ・普段の学習では出てこないような、幅広い分野の手話単語が出てくる
- ・自然な会話ができる
- ・質問しやすい雰囲気がある
- ・ろう者の生きた手話が見られる

★悪いフリートークとは・・・

- ・ろう者が一方的に話す
- ・手話が達者な特定の人だけが話す
- ・話の内容が分からない人がいるのに、ノンストップ

フリートーク②

★良いフリートークを行うために

- ・フリートークの目的を明確にする。
 登場人物が2人以上出てくるようにする
 未来の話、過去の話、仮定の話
- ・必ず全員が話せるようにする。
- ・表現された手話を訂正していく。
- ・分からない時は、話を止める。
- ・テーマを決めておく。
- ・グループ分けして手話のレベルを統一する

コラム②手話サークルの数・会員数

サークル総数	都道府県別サークル数
1887	1位 愛知県 187
	2位 神奈川県 110
	3位 北海道 93

会員総数

4万1089人

(季刊みみ119号 2008年春号)

グループ分け

初級(A班、たまごグループ)、
中級(B班、ひよこグループ)
上級(C班、にわとりグループ)

★グループ分けのメリット

- ・学習進度やレベルに応じた内容ができる
- ・次のグループに行こう！という目標ができる

★注意点

月に1回の交流会やレクを設け、様々なレベルの人と交流をできるようにする。

1か月の活動計画例

	30分	初級		中級		上級		連絡通訳
第一週	ろう者	聴者A	ろう者A	聴者B	ろう者B	聴者C	ろう者C	聴者J
第二週	ろう者	聴者D	ろう者D	聴者E	ろう者E	聴者F	ろう者B	聴者K
第三週	ろう者	レク、学習会、講演会、交流会、班活動・・・						聴者L
第四週	ろう者	聴者G	ろう者C	聴者H	ろう者A	聴者I	ろう者D	聴者M

意見BOXの設置

- ・サークル終了前に紙を配布し、その日の感想や、改善点などを書いてもらう。回収BOXを設置し、帰る前に入れてもらう。
- ・役員の意見だけでなく、サークルづくりに会員の意見を取り入れることができる。
- ・自分もサークルを運営する一員なのだという自覚を、全員に持ってもらうことができる。
- ・より良い学習方法やレクを考えることができる。

手話サークルに通う理由

- ①サークルに行きたいから
 - ・手話の学習が楽しい
 - ・いろいろな人と交流したい
 - ・手話を教えたい
 - ・居心地が良い
- ②サークルに行く必要があるから
 - ・学習等の担当になっている
 - ・役員
 - ・情報交換

まとめ

- ・聴者、ろう者、役員関係なく誰もが行きたいサークル、行く必要があるサークルをつくる
- ・サークルの目的、学習の目的をはっきりさせる
- ・教わって分かる喜び、教えて分かってもらう喜びをつくる
- ・時間通りに始める
- ・「私は関係ない」という人をつくらない
- 会員の意見を聞き、多くの人に何かしらの担当になってもらう

参考

・手話サークルによるコミュニケーション支援者育成の現状と課題—大阪府内手話サークルの実態調査を通して—

佐野 美保 大阪市立大学大学院 日本福祉教育・ボランティア学習会研究紀要 2009
<http://ci.nii.ac.jp/naid/110007882245>

・手話サークルに関する指針 全日本ろうあ連盟
<http://tosaren.web.fc2.com/pdf/shishin.pdf> (都サ連内)

・季刊みみ119号 2008年春号

その他参考となる資料

・手話研修プログラム ～特別支援学校(聾学校)における手話を活用した指導に関する研究～

<http://www.tokuen.hokkaido-c.ed.jp/06sinyou/syuwa/syuwa.pdf>

・埼玉県手話サークル連絡協議会例会ネタ

<http://www.5e.biglobe.ne.jp/~tzu/kensaren/item/item.html>